

オーストラリア学会報

Australian Studies Association of Japan

第99号

2023年9月15日

<https://www.australianstudies.jp/>

1. オーストラリア学会 2023 年度第 34 回全国研究大会を終えて

代表理事 永野隆行

本年度の研究大会を6月17日と18日の2日間にわたり、神奈川大学みなとみらいキャンパスにて開催いたしました。今大会は Covid-19 による諸規制が緩和されて初の大会となり、全面対面形式での開催となりました。

今大会につきましても、オーストラリア政府豪日交流基金 (Australia Japan Foundation) から助成をいただきました。またまもなく創立 100 周年を迎える神奈川大学からは、2021 年度に開設したばかりの「みなとみらいキャンパス」を会場としてご提供いただきました。最高の環境で今大会を実現できましたこと、学会を代表して御礼を申し上げます。

今大会のオープニングセレモニーには、ジャスティン・ヘイハースト駐日オーストラリア大使夫妻、そして神奈川大学学長の小熊誠先生にご臨席を賜り、ご挨拶をいただきました。また中国のオーストラリア学会にあたる Chinese Association of Australian Studies 理事長の Chen Hong 先生も駆けつけてくださり、Hong 先生からは個別報告のセッションでご報告もいただきました。

大会初日は、オープニングセレモニーに続き、ニコル・ムーア先生 (東京大学アジア太平洋センター客員教授、ニューサウスウェールズ大学) による「横断するベクトル—世界におけるオーストラリアの文学と文化」と題した特別講演がありました。それに続き、豪日交流基金助成シンポジウム第一弾として「オーストラリア児童文学と日本」が行われました。百々佑利子氏、さくまゆみこ氏、原田勝氏、三辺律子氏の4名の翻訳家と鈴木宏枝先生 (神奈川大学) とムーア先生の日豪の2名の研究者がそれぞれの立場から児童文学の特徴と魅力について語りました。会場にいた参加者全員が児童文学の世界に引き込まれたことを今でも覚えています。

大会二日目は、午前中に個別報告が行われ、大変活発な議論が展開されたと報告を受けております。そして午後には豪日交流基金助成シンポジウム第二弾として「AUKUS とその影響」が行われました。オーストラリアからは、フランク・ボンジョルノ先生 (ANU)、ヒュー・ホワイト先生 (ANU) がお話しくださいました。ボンジョルノ先生は政治史の観点から、ホワイト先生は外交安全保障の観点から AUKUS の意義を話しました。またティム・スートボマサン先生 (オックスフォード大学、オンライン参加) は多文化主義という観点から AUKUS を論じてくださいました。そして大庭三枝会員にも ASEAN と AUKUS という視点からお話いただきました。それぞれ大変熱のこもったご報告で、その後の質疑応答の時間が足りなくなりました。

2日間の全日程を無事に終了したことをここにご報告するとともに、会員の皆様のご理解とご協力に御礼を申し上げます。今大会の開催にあたりましては、大会実行委員会の杉田弘也会員と栗田梨津子会員、そして企画担当理事の藤岡伸明会員にご尽力をいただき、心から御礼を申し上げます。来年の大会は松山大学となります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

2. 総会報告

日時: 2023年6月17日(日) 13時15分~14時

場所: 神奈川大学 4F 米田吉盛記念講堂

開始冒頭で議長が選出され、以下のように議事が進行了た。

1. 藤岡理事 (企画担当) より、2022・2023 年度全国研究大会の開催状況、2024・2025 年度全国研究大会の

準備状況、AJF 助成金の支給・申請状況、地域研究会（関東例会・関西例会）の実施状況、オーストラリア大使館との協力・交流の状況が報告された。

2. 塩原理事（総務担当）より、地域研究学会連絡協議会（JCASA）への協力状況、日本学術振興会育志賞の学会推薦結果（推薦者なし）などが報告された。また新規入退会状況が報告され、会員拡大および持続可能な学会運営の方策を検討するためのワーキンググループの設置を検討することが報告された。

3. 栗田理事（編集担当）より、学会誌 36 号の刊行、35 号掲載論稿および書誌情報の J-Stage と EBSCO 社データベースでの公開が報告された。さらに審議事項として、第 5 回優秀論文賞の選考委員長の福嶋会員より選考結果が報告され、了承された。また栗田理事より優秀論文賞規程の改訂が提案され、了承された。

4. 村上理事（会計担当）より、2022 年度収支決算、2023 年 3 月 31 日現在財産目録が報告され、有満監事より監査結果が報告された。さらに 2023 年度予算案が説明され、了承された。

3. 第 12 期第 3 回理事会報告

日時：2023 年 6 月 17 日（土）10 時～12 時 15 分

場所：神奈川大学 4020 教室（ハイブリッド）

出席者：（対面）阿部亮吾・小野塚和人・栗田梨津子・佐藤渉・杉田弘也・友永雄吾・永野隆行・湊圭史・村上雄一・安田純子・有満保江（監事）

（オンライン）飯笹佐代子・塩原良和・中澤加代・藤岡伸明・舟木紳介・前川真裕子・福嶋輝彦（学会賞選考委員長）

※敬称略

1. 藤岡理事より、2022 年度全国研究大会の開催状況と、2023 年度全国研究大会の準備状況、2024・2025 年度全国研究大会の準備状況が報告された。AJF 助成金の支給・申請状況、地域研究会（関東例会・関西例会）の実施状況、オーストラリア大使館との協力・交流の状況が報告された。
2. 各担当理事より、会報発行状況、学会ホームページ・フェイスブック運用状況、関西例会、関東例会の開催結果が報告された。
3. 塩原理事より、前回理事会の議事録の修正についての説明があった。また地域研究学会連絡協議会（JCASA）への参加状況、日本学術振興会育志賞の学会推薦者がいなかったことが報告された。
4. 栗田理事より、学会誌 36 号の刊行と投稿状況、また 35 号掲載論稿が J-Stage にアップされ、書誌情報が EBSCO 社データベースで公開されたことが報告された。さらに第 5 回優秀論文賞の選考の経緯が説明され、また選考委員長の福嶋会員より選考結果が報告され、了承された。続けて栗田理事より優秀論文賞規程の改訂が提案され、総会に諮ることが了承された。なお詳細については今後編集委員会にて検討し、理事会での検討を経て優秀論文賞選考委員会実施細則を改訂することになった。
5. 村上理事より、2022 年度収支決算、財産目録、2023 年度予算案が報告された。有満監事より監査結果が報告され、これらを総会に諮ることが了承された。なお学会の資産（預金残高）については、有意義な活用方法を今後積極的に検討していくこととした。
6. 塩原理事より、新規入退会状況が報告され、了承された。また会員拡大および持続可能な学会運営の方策を検討するためのワーキンググループを設置することが提案され、了承された。
7. 塩原理事より、海外からの全国大会個人報告予定者の直前キャンセルの増加が報告され、抑制するための方策を検討していくことになった。
8. 塩原理事より、INPEX 教育交流財団から奨学金の広告掲載依頼、国外の学術団体等との交流の提案などが報告された。

4. 第 5 回優秀論文賞選考結果報告

優秀論文賞選考委員会 委員長 福嶋輝彦

選考委員会の各委員は、今回の選考対象である『オーストラリア研究』第 35 号・第 36 号掲載の査読論文を各委員が精査し、4 月 22 日にテレコンファレンス形式で審議した結果、過去の受賞論文のレベルを満たしている論文は認められず、2 回連続となるのは本委員会の本意ではないが、今回も受賞該当論文なしとの結論に至った。今後とも会員による精力的な論文の発表に期待をしたい。

5. 優秀論文賞の今後の運営方針について

オーストラリア学会理事会

一般論として、本賞の選考対象となる論文はすべて、本学会誌の査読に合格して掲載されたものです。その意味では、すべての候補論文がすでに「優れた研究論文」であるといえます。そのなかからあえて、すべての会員が納得できる「特に優れた」論文を顕彰するのは、学際的な地域研究会という本学会の性質もあって非常に難しいことです。にもかかわらず、歴代の選考委員会のみなさまには常に最善を尽くしていただいております、深く感謝申し上げます。

理事会としましては、2回続けて該当論文なしという結果になったことも踏まえつつ、引き続きより良い選考のあり方を目指した関連規程の改訂などの改革を進めていく所存です。

6. オーストラリア学会財務諸表

2022年度決算

支払決算書

2022年4月1日から2023年3月31日まで

(単位：円)

科目	予算額	決算額	差異	備考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①基本財産運用益	100	10	△ 90	郵貯利息(6+4)
②受取会費	1,400,000	1,262,500	△ 137,500	2020年度会費 0 2021年度会費 8,000 2022年度会費 1,214,000 前受会費 2023年度会費 48,000 預り金総額 △7,500
③雑誌販売収入	10,000	6,285	△ 3,715	2,095×3冊
④その他	0	26,400	26,400	非会員全国研究大会参加報告費 10,000-800(送金手数料)×2名 論文投稿料 8,000×1名
事業活動収入計	1,410,100	1,295,195	△ 114,905	
2. 事業活動支出				
①事業費				
大会及び研究会旅費補助等	120,000	118,800	△ 1,200	全国研究大会担当校補助 100,000 地域研究会(関東・関西例会)補助 5,000×2+8,800=18,800 なお第31回地域研究会(関西例会)補助(5,000)は次年度決算へ
国際学会派遣事業費用	140,000	0	△ 140,000	
事業費計	260,000	118,800	△ 141,200	
②管理費				
印刷費	500,000	469,975	△ 30,025	2021年度学会誌分(235,441)含む
会議費	45,000	0	△ 45,000	
消耗品費	5,000	0	△ 5,000	
通信費	80,000	46,019	△ 33,981	2021年度学会誌発送通信費 18,605 2021年度学会誌発送関連費 15,865 2022年1月-3月 431 2022年4月-6月 2,058 2022年7月-9月 550 2022年10月-12月 95 振込手数料(165×11) 1,815 レンタルサーバー料 6,600 2023年1月-3月分(370)および学会誌発送費(18,280+16,187)は次年度決算へ
謝金	20,000	20,764	764	英文校閲 10,764 査読 5,000×2
業務委託費	450,000	419,540	△ 30,460	2022年1月-3月 47,971 2022年4月-6月 272,571 2022年7月-9月 53,244 2022年10月-12月 45,754 2023年1月-3月(48,866)は次年度決算へ
学会賞賞品購入費	15,000	0	△ 15,000	
雑費	10,000	0	△ 10,000	
管理費計	1,125,000	956,298	△ 168,702	
事業活動支出計	1,385,000	1,075,098	△ 309,902	
事業活動収支差額	25,100	220,097	194,997	
II 投資活動収支の部				
	0	0	0	
III 財務活動収支の部				
	0	0	0	
IV 予備費支出の部				
	0	0	0	
当期収支差額	25,100	220,097	194,997	
前期繰越収支差額	6,474,205	6,474,205	0	
当期繰越収支差額	6,499,305	6,694,302	194,997	2023年3月末現在 入金口座残高 6,317,823 支払口座残高 376,479

財産目録

2023年3月31日現在

(単位：円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)			
	現金預金		0
	手許現金		
	普通預金	運転資金として	
	新口座		376,479
	振替口座	運転資金として	
	郵便振替口座		6,317,823
流動資産合計			6,694,302
資産合計			6,694,302
(流動負債)			
	未払金		0
	前受会費	翌事業年度会費	48,000
流動負債合計			48,000
負債合計			48,000
正味財産			6,646,302

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込方式を採用している。

(2) 棚卸資産の評価

棚卸資産については、金額的に重要性がないために評価をないものとみなした。

監査報告書

収支決算書及び財務諸表を監査した結果、適正かつ正確であることを報告します。

2023年5月17日

監事 濱 嶋 聡

監事 有 満 保 江

2023 年度決算

収支予算書

2023 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日まで

(単位：円)

	科目	予算額	前年度予算額	差額	備考
I.	事業活動収支の部				
1.	事業活動収入				
	①基本財産運用益	100	100	0	
	②受取会費・入会金	1,250,000	1,400,000	△ 150,000	前年度実績より減額
	③雑誌販売収入	10,000	10,000	0	
	④その他	0	0	0	
	経常収益計	1,260,100	1,410,100	△ 150,000	
2.	事業活動支出				
	①事業費				
	大会及び研究会旅費補助等	140,000	120,000	20,000	前年度実績から増額
	国際学会派遣事業費用*	200,000	140,000	60,000	航空券高騰のため増額
	事業支出計	340,000	260,000	80,000	
	②管理費				
	印刷費	250,000	500,000	△ 250,000	前年度分の学会誌印刷実績から減額
	会議費	45,000	45,000	0	
	消耗品費	5,000	5,000	0	
	通信費	50,000	80,000	△ 30,000	前年度分(34837)含む
	謝金	20,000	20,000	0	
	業務委託費	450,000	450,000	0	前年度分(48,866)含む
	学会賞品購入費	15,000	15,000	0	
	雑費	10,000	10,000	0	
	管理支出計	845,000	1,125,000	△ 280,000	
	事業活動支出計	1,185,000	1,385,000	△ 200,000	
	事業活動収支差額	75,100	25,100	50,000	
II.	投資活動収支の部				
		0	0	0	
III.	財務活動収支の部				
		0	0	0	
IV.	予備費支出の部				
		0	0	0	
	当期収支差額	75,100	25,100	50,000	
	前期繰越収支差額	6,694,302	6,474,205	220,097	
	次期繰越収支差額	6,769,402	6,499,305	270,097	

*海外学術大会参加助成制度細則（2017 年 6 月 18 日総会承認）により、助成総額は年間最大 30 万円と定められている。

7. 2024 年度全国大会について・個別研究報告の募集

オーストラリア学会 2024 年度総会・全国研究大会は、6 月 15 日・16 日（土・日）両日に、松山大学・樋又キャンパスにて開催予定です。研究報告を希望される会員は、下記の Web フォームに必要事項を明記の上、2023 年 12 月 31 日（日）までにお申し込みください。

https://docs.google.com/forms/d/15HGnRFKJmqOTLLsu5Ht9ytJeF4wM2jP7xoeV5rjpuZ0/viewform?ts=64e18fbd&edit_requested=true

ご質問は以下のアドレスまでお願いいたします。 onozuka-k@kanda.kuis.ac.jp (小野塚和人、全国大会担当理事)

8. オーストラリア学会 第32回地域研究会（関西例会）報告

前川真裕子（関西例会担当理事）

第32回オーストラリア学会関西例会が2023年5月13日に追手門学院大学茨木安威キャンパスで行われた。第一発表者の杉山暁子氏（大阪大学大学院）は、アボリジナル・アートをめぐる新たな考察として、DAFFによるアート作品の展示即売活動を取り上げた。DAFFでのアート作品の売買取引がディーラーを介さないことによるコミュニティへの売り上げ還元につながっている様子が紹介された。第二発表者の仲西恭子氏は社会言語学の視点から、新聞報道で取り上げられた移民に関する差別的ディスコースと人種差別禁止法をめぐるディスコースを分析した。専門分野の異なる両氏の発表ではあったが、オーストラリアにおける社会的少数派の人々がどのような言説で語られてきたのか、またそれを乗り越える試みを行っているのか、会場参加者が共に議論することができた。筆者も改めてメディア王として世界的に事業を展開するマードック氏の影響力の強さを認識した。（参加者20名）

9. オーストラリア学会 第33回地域研究会（関西例会）のお知らせ

*会員以外の方も参加できます。入場無料。

日時：2023年11月18日（土）14:00~17:00

会場：キャンパスプラザ京都（★教室未定）

京都市下京区西洞院通塩小路下る東塩小路939

JR京都駅（烏丸口）から西へ徒歩5分。

交通：〔キャンパスプラザ京都へのアクセス〕

<https://www.consortium.or.jp/about-cp-kyoto/access>

参加申し込み先：氏名・所属を明記のうえ、11月12日（日）までに下記アドレス宛お申し込みください。研究会終了後、JR京都駅周辺で懇親会を予定しています。会場予約の都合上、懇親会参加の有無も必ずご記入ください。

tomou5@world.ryukoku.ac.jp（関西例会担当理事：龍谷大学 友永雄吾）

★会場が変更になった場合は、会員向けメールリスト、および「オーストラリア学会 Facebook」で一般に告知します。参加申し込み先は変更ありません。

発表1：「シドニー大都市圏における日本人留学生の移動と空間」

阿部亮吾（愛知教育大学）

〔要旨〕 オーストラリアの大学では、1990年代以降、私費留学生の獲得競争が激化しており、とりわけ中国やインドといったアジア圏からの留学生が急増した。これら留学生は教育産業に経済的利益をもたらすだけでなく、都市に住まい消費しかつ労働する「都市居住者」でもある。そこで本発表では、日本人留学生に焦点を当て、その居住形態やライフコースに合わせた都市内移動が、シドニー大都市圏の空間構造や都市再開発といかなる関係にあるのかを検討したい。

発表2：「クイーンズランド州ヨーク岬及びケアンズ北部の先住民言語復活・維持」

濱嶋聡（名古屋外国語大学）

〔要旨〕 オーストラリア最北端のヨーク岬に位置する5つのコミュニティ（アボリジニーズ、トレス海峡諸島民）のうちの一つ、Bamaga（バマガ）コミュニティ内アボリジニーズ家族宅に滞在しての情報収集、ケアンズ、Pama（パマ）言語センター内の長年の研究協力者で、教育者で言語学者でもあるスタッフを訪問してのIT言語教材資料収集をもとに各言語コミュニティの視点に立った言語復興・維持について発表（日本学術振興会科学研究費助成事業・基礎研究(C)2020, 2021, 2022）。

10. オーストラリア学会 第17回地域研究会（関東例会）のお知らせ

杉田和也

10月から12月にかけて、東京大学アメリカ太平洋地域研究センター（CPAS）のオーストラリアン・スタディーズ担当客員教授のロドニー・スミス（シドニー大学、政治学）を講師に迎え講演会を開催する予定にしています。スミス教授の着任が9月24日であり、その後CPASとも相談して日程を決める予定にしています。

日時や開催場所が決まり次第、学会のメーリングリストおよびFBで周知します。

11. 公益財団法人 INPEX 教育交流財団 日本人奨学生募集について

公益財団法人 INPEX 教育交流財団（本学会賛助会員）より、オーストラリアに留学を希望する日本人の学生または研究者に対する奨学金のご案内をいただきました。詳細は本学会号の巻末をご参照ください。なお、本奨学金につきましては学会メーリングリストおよびフェイスブックでは既にご案内しております

12. 会費納入のお願い

年会費の請求は年度の始まり4月に行いますが、年会費が納入されると、納入時期にかかわらず未払い年度がある場合そこへ充当されます。たとえば2023年5月に年会費を納入しても、2022年度未払いの場合、それは2022年度の会費となります。すなわち、2023年度は未納ということになります。また2021、2022年度未払いの場合、2021年度分の会費納入になります。

<会費が未納となっている会員の皆様へ>

会費が未納の皆様へは、請求を別便にて送付します。未納年度分（2022年度を含め最多3か年）を速やかに振込票にて納入願います。未着の方はアカデミーセンター「オーストラリア学会」担当宛までお知らせ願います。なお、会費振込票に会員名の記載がない場合、振込会員を特定できないため、必ず会員名をお書きください。また原則領収書は発行しておりません。郵便振替票の受領書などをご利用願います。

会費未納の会員の皆様には、当該年度の会費納入が確認され次第、学会誌『オーストラリア研究』（現在2023年3月発行、第36号）までをお送りしております。事務局では3か年分の在庫を保管しておりますので、順次発送しておりますが、お手元に届くまで若干時間がかかる場合もあります。会費納入にもかかわらず未着の学会誌がありましたら、恐縮ですが、学会事務局（アカデミーセンター）にご連絡ください。

13. 「マイページ」登録と内容更新のお願い

オーストラリア学会では会報の電子化を進めて参りました。2019年度まで学会直前号のみ他の配布物と併せ紙媒体で発行しておりましたが、2020年度より学会直前号を含むすべての会報を電子化しました。会報電子版は学会ウェブサイトに掲載されますが、発行のお知らせは「マイページ」に登録された電子メール宛てに送られます。アドレスの登録・確認・更新をお願いいたします。

マイページ URL : <https://www.bunken.org/asaj/mypage/User>

14. 『オーストラリア研究』投稿募集および研究文献目録掲載のお知らせ

オーストラリア学会では、『オーストラリア研究』に掲載する論文を募集しています。投稿はいつでも受け付けております。投稿要領・投稿申込書・投稿先はウェブサイトをご参照ください (<http://www.australianstudies.jp/publish/youryou.html>)。

投稿申込書もウェブサイトからダウンロードしてください (<http://www.australianstudies.jp/publish/entry>)

[journal.html](#))。2024年3月刊行予定の第37号の投稿は2023年9月22日で締め切ります(当初、8月末を締め切りとしておりましたが期間を延長いたしました)。不明な点などがあれば、編集担当理事・栗田梨津子

(kurita@kanagawa-u.ac.jp)までお問い合わせください。第12号以降、会員の研究文献目録を掲載しております。引き続き会員の協力をお願いします。発表された著書、論文、報告書、翻訳などの中から、オーストラリア学会の趣旨に関する研究文献を選び、電子メールでお知らせください。締め切りは2023年10月30日です。記入例はバックナンバーを参照し、掲載書式に準ずる形でお送りください。

投稿先：〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター「オーストラリア学会」担当

TEL : 03-6824-9372 FAX : 03-5227-8631 Email : asai-post@as.bunken.co.jp

『オーストラリア研究』ウェブサイト：<http://australianstudies.jp/publish/index.html>

15. 新刊書のご案内

	<p>アレクシス・ライト著『地平線の叙事詩』(原題: Odyssey of the Horizon) 有満江訳 [日本語]; 李尧訳 [中国語]、現代企画室、2023年5月刊行、四六版、208頁、1,800円+税、</p> <p>オーストラリアを代表するアボリジナル作家が、歴史に引き裂かれた無数の人々に捧げる「世界文学」。</p> <p>オーストラリアの大地に何万年と住み続けてきた先住民とイギリスからの入植者“白い幽霊”との出会いに始まる、時空を超えた悲しくも美しい叙事詩。</p> <p>写真と紹介文の出典：現代企画室ウェブサイト http://www.ica.apc.org/gendai/onebook.php?ISBN=978-4-7738-2304-2</p>
	<p>クリスティン・パイパー著『暗闇の後で 豪州ラブデー収容所の日本人医師』(原題: After Darkness) 北條正司訳、花伝社、2023年8月刊行、四六版、336頁、2750円(税込み)</p> <p>誰にも話せない「暗闇」が、私の運命を翻弄した</p> <p>731部隊と繋がる防疫研究室で石井四郎の部下として働いた医師、茨木智和。最高機密の下で目の当たりにした数々の事実により、彼は愛する人を失い、人生は流転を始める。</p> <p>たどり着いた地・オーストラリアで開戦を境に“敵”となった彼は、強制収容所での日々を通じ、どう「暗闇」と向き合ったのか――</p> <p>写真と紹介文の出典：花伝社ウェブサイト https://www.kadensha.net/book/b10033487.html</p>
	<p>キャシー・ジェットニル＝キジナー著『開かれたかご ―マーシャル諸島の浜辺から』一谷智子訳、みすず書房、2023年2月刊行、四六判、216頁、2,970円(税込み)</p> <p>「与えて与えて与え尽くせ」、その後かごには何が残る？ 本書はマーシャル諸島出身の若き詩人による詩集である。</p> <p>アメリカによる核実験や気候変動などの背景にある構造に切り込む槍のような詩、伝説の女神から祖母、母、そして詩人自身から娘へと続いていく連帯を描く詩、国連気候変動サミットで朗読した代表作「ねえ、マタフェレ・ペイナム」ほか計28篇。</p> <p>写真と紹介文の出典：みすず書房ウェブサイト https://www.msuz.co.jp/book/detail/09589/</p>



2024年度 日本人奨学生募集

『公益財団法人 INPEX 教育交流財団』は、『株式会社 INPEX』の前身である『インドネシア石油株式会社』の創立 15 周年を記念して 1981 年 3 月に設立されました。

以来 40 年以上、インドネシアと日本の留學生の交流により、両国の相互理解・友好・親善の発展に寄与する事を目的として活動を行っております。2022 年度、対象国にオーストラリアを加え、日本に留学を志望するオーストラリア人とオーストラリアに留学を志望する日本人の学生、または研究者に対して奨学金を支給する事といたしました。

2023 年度は、オーストラリア人 2 名と日本人 2 名を奨学生に採用いたしました。

募集の詳細は、当財団のホームページに掲載している「2024 年度 募集要項」をご覧ください。

【募集概要】

応募資格

日本国籍を有し、日本の大学を卒業またはそれと同等以上の学力を有すると認められるもので、オーストラリアの文化・芸術・社会科学・人文科学・自然科学などの研究を続けている 35 歳未満の者

採用人数

若干名

奨学金

月額 15 万円（支給期間 2 年以内）
日本とオーストラリア間の往復フライト代 他

応募期間

2023 年 8 月 1 日～10 月 31 日（消印有効）

採用決定

2024 年 3 月末

公益財団法人 INPEX 教育交流財団

東京都港区赤坂 5-3-1 赤坂 Biz タワー 34 階

TEL : 03-5572-0602

FAX : 03-5572-0603

WEB : <https://www.inpex-s.com>



【オーストラリア学会事務局】(各種届出・連絡先)

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター「オーストラリア学会」担当

TEL: 03-6824-9372

FAX: 03-5227-8631

E-mail: asaj-post@as.bunken.co.jp

会費振込先: 00190-3-157063

加入口座名: オーストラリア学会

※ 本会報は学会記録のほか、会員からのご意見や著書・新刊情報などを掲載します。学会事務局までお送りください。なお紙面の制約上、掲載できない場合がありますことをご了承ください。

[編集担当：中澤加代 (広報・会報担当理事)]